

令和6年度 日本大学文理学部付置研究所 所員個人研究費 研究実績報告書

所属・資格 史学科・教授

申請者氏名 古川 隆久

| | | |
|---|---|--|
| 研究課題 | | 日本近現代史像の再構築 |
| 報告の概要 | 研究目的 および 研究概要 | <p>近現代日本の政治及び社会や文化の構造や実態、それら相互の関連性について、2016年刊の拙著『昭和史』（ちくま新書）で示した見通しをふまえ、政治史を中心に歴史学的により深く考察することを通じて、日本近現代史像の再構築をめざす。</p> <p>昨年度に引き続き、古川が分担者として参加している科研費の作業が優先となるが、「日本近現代史における室内楽」についての史料収集を継続し、それらについての成果を活字化できるように努める。その他、日本近現代史像の再構築の手掛かりとするため、外国史、前近代の日本史、史学史や歴史理論、政治学・経済学・社会学・民俗学・文学・音楽・美術など、隣接分野の最新の研究成果の吸収にもつとめる。</p> |
| | 研究の結果 | <p>『政党政治家と近代日本—前田米蔵の軌跡』を令和6年4月末に人文書院から刊行し、立憲政友会・翼賛政治会の幹部や国務大臣を数度務め、大正中期から昭和戦後の占領期にかけて、保守系の有力な政党政治家となった前田米蔵を、幕末以来の経済発展（「富国」）を安定的に進めるための保守合同路線の前史を作った政治家であったことを明らかにした。</p> <p>さらに、『音楽と戦争—京極高鋭・動員と和解の昭和史』（中公選書）を執筆し、令和7年3月24日付で刊行し、1930年代から50年代にかけて音楽ジャーナリスト・音楽プロデューサーとして活動した京極高鋭について、近代化途上の国際文化交流に貢献した人物であることを明らかにした。</p> <p>科学研究費補助金（JSPS 20H01317）の研究成果を一般に分かりやすく紹介するため、8月に古川隆久・茶谷誠一・富永望・瀬畑源・河西秀哉・舟橋正真・吉見直人共著『「昭和天皇拝謁記」を読む』を岩波書店から刊行し、古川担当部分では、「拝謁記」の史料としての意義や、三谷隆信が戦後長年昭和天皇の侍従長を務めることができた理由を明らかにした。</p> |
| | 研究の考察・反省 | <p>年来の研究課題のうち、前年度にまとめたものを1つ、今年度にまとめたものを1つ、それぞれ著書（単著）にまとめることができたので、十分な成果を得られたと考える。</p> |
| 研究発表 学会名 発表テーマ 年月日／場所 | <p>※この欄は、本報告書提出時点で判明している事項についてご記入ください。</p> <p>著書（単著）</p> <p>①『政党政治家と近代日本 前田米蔵の軌跡』（人文書院、2024年4月）</p> <p>②『音楽と戦争—京極高鋭・動員と和解の昭和史』（中央公論新社〔中公選書〕、2025年3月）</p> | |
| 研究成果物 テーマ 誌名 巻・号 発行年月日 発行所・者 | <p>著書（共著）</p> <p>(1)個人研究費関係</p> <p>①鈴木淳・山口輝臣・沼尻晃伸編『日本史の現在6 近現代②』（山川出版社、2024年7月）→「日本の戦時体制をどう考えるか」を担当</p> <p>②日本大学文理学部史学科編『歴史学の扉 歴史を学ぶということ』（山川出版社、2024年12月）→「日本近現代史—研究の特徴と面白さ—」を担当</p> <p>(2)科学研究費補助金（JSPS 20H01317）関係</p> <p>古川隆久・茶谷誠一・富永望・瀬畑源・河西秀哉・舟橋正真・吉見直人共著『「昭和天皇拝謁記」を読む』（岩波書店、2024年8月）→「なぜ、いま「昭和天皇拝謁記」か」「侍従長三谷隆信の人と軌跡—侍従長としては誠に適当と存じます」「コラム1 『西園寺公と政局』を読む昭和天皇」「コラム2 東条英機と近衛文麿」担当</p> | |